

1 学年・教科 小学校1年・算数

2 単元名 「ずをつかってかんがえよう」

3 指導計画

時間	ねらい	学習活動	評価			
			知	思	態	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> 前と後ろに並んでいる人数に1をたす問題について、図をもとに問題の構造を捉え、解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> 順序数と集合数が混在している問題文を読み、問題場面を文章でとらえる。 ブロックで問題場面を表す。ブロックで表したものを図で表す。図を基に立式にする。式の意味を説明し合う。 順序数を集合数に置き換えることによって既習の加法や減法が適用できることをまとめる。 		○	○	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 書き込み
② 本時	<ul style="list-style-type: none"> 順序数について、加法や減法が適用できることを理解し、問題を解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> 順序数と集合数が混在している問題文を読み、問題場面を文章でとらえる。 ブロックで問題場面を表す。ブロックで表したものを図で表す。図を基に立式にする。式 	○	○		<ul style="list-style-type: none"> 書き込み

		<p>の意味を説明し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・順序数を集合数に置き換えることによって既習の加法や減法が適用できることをまとめる。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・書き込み
3	<ul style="list-style-type: none"> ・異種の量について、加法や減法が適用できることを理解し、問題を解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文を基に式に表す。 ・自分の立てた式と根拠を発表し、話し合う。 ・2種類の数字の混じった問題文に示された数量を整理し、図に表す。 ・図を基に立式をする。 ・異種の数量を1対1に対応させ、同種の量に置き換えることによって、既習の加法ができることをまとめる。 	○	○		<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・書き込み ・書き込み
4	<ul style="list-style-type: none"> ・求大の場面で加法を適用し、問題を解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・求大の場合についての問題文を読み、題意をとらえる。 ・問題文を基に「分かっていること」や「尋ねられていること」を整理し、図に表す。 ・図を基に立式する。 ・自分で立てた式、その根拠を発表し合う。 ・求大の場合について、加 	○	○		<ul style="list-style-type: none"> ・書き込み ○ ・行動観察 ・書き込み

		法が適用できること、 図を用いると数量関係 がとらえやすいことを まとめる。				
5	<ul style="list-style-type: none"> ・求小の場面で減法を適用し、問題を解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・求小の場合についての問題文を読み、題意をとらえる。 ・問題文を基に「分かっていること」や「尋ねられていること」を整理し、図に表す。 ・図を基に立式する。 ・自分で立てた式、その根拠を発表し合う。 ・求小の場合について、減法が適用できること、図を用いると数量関係がとらえやすいことをまとめる。 	○			<ul style="list-style-type: none"> ・書き込み ・行動観察 ・書き込み
6	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な学習内容を理解しているか確認し、それに習熟する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文にある数値だけでは解決できない問題文を読み、題意をとらえる。 ・問題文を基に「分かっていること」や「尋ねられていること」を整理し、式に表す。 ・問題文を図に表す ・図を基に立式する。 ・自分で立てた式とその 		○		<ul style="list-style-type: none"> ・書き込み ・書き込み ・行動観察

		根拠を発表し、話し合う。 ・図を基に考えることで、問題文に数値として示されていない数が明らかになり、問題解決ができたことをまとめる。	○	○		・書き込み
--	--	---	---	---	--	-------

4 期待できる基礎的・汎用的能力

- (1) 課題対応能力 (情報の理解・選択・処理等、課題発見) 【課】
- (2) キャリアプランニング能力 (多様性の理解、生活や社会との関連) 【キ】

5 本時の目標

順序数について、加法や減法が適用できることを理解し、問題を解決する。

(思考力、判断力、表現力等)

6 本時の指導 (2 / 6時)

	時配	学習活動	○指導上の留意点 ★キャリア教育の視点	評価			
				知	思	態	評価方法
導入	5	1 問題を把握する。 ・算数ブロックを使った方法など、既習の解き方を想起させる。	○これまで使ってきた考え等を確認する。				

展 開	30	<p>2 自力で問題を解く。 ・算数ブロックを使う。 ・考えを図に表す。</p> <p>3 図を使って説明する。 ・黒板を使って説明する。 ・友達に教える。</p> <p>4 分かったことをまとめる。 ・ノートにまとめを書く。</p> <p>5 発展問題に取り組む。 ・分からないところは学び合いをする。</p>	<p>○可能な限り児童同士で協力・支援しながら課題を解決させる。</p> <p>○周囲に理解できている児童がいない場合、理解している児童を教諭役として教室内の移動を許可する。</p> <p>★仕事等をする上での様々な課題を発見・分析し、解決に向けて適切な計画を立てる。</p> <p style="text-align: center;">【課】【キ】</p> <p>○課題を解決し、自分の考えを広げていくことができる。</p>				<p>○ ・行動観察</p> <p>○ ○ ・行動観察 ・書き込み</p> <p>○ ○ ・書き込み</p>
ま と め	10	<p>6 本時を振り返る。 ・諦めずに頑張ったことなど、問題へ取り組む姿勢についても振り返るようにする。</p>	<p>○自分の言葉で振り返りをさせる。</p> <p>○優れた図やキーワードを用いてまとめられている児童の「まとめ」を共有する。</p>		○		<p>・書き込み</p> <p>・書き込み</p>

★小・中・高接続のポイント

「課題対応能力」について

(小) 電流がつくる磁力について追究する中で、電流がつくる磁力の強さに関する条件についての予想や仮設を基に、解決の方法を発想し、表現すること。

小学校学習指導要領 第2章 第4節〔第5学年〕 電流がつくる磁力

(中) 回路をつくり、回路の電流や電圧を測定する実験を行い、回路の各点を流れる電流や各部に加わる電圧についての規則性を見いだして理解すること。

中学校学習指導要領 第2章 第4節〔第1分野〕 電流とその利用

(高) 電気や磁気について、観察、実験などを通して探究し、電気と電流、電流と磁界における規則性や関係性を見いだして表現すること。

高等学校学習指導要領 第2章 第5節〔第3物理〕 電気と磁気

「キャリアプランニング能力」について

(小) 物の溶け方について追究する中で、物の溶け方の規則性についての予想や仮設を基に、解決の方法を発想し、表現すること。

小学校学習指導要領 第2章 第4節〔第5学年〕 物の溶け方

(中) 化学変化の前後における物質の質量を測定する実験を行い、反応物の質量の総和と生成物の質量の総和が等しいことを見いだして理解すること。

中学校学習指導要領 第2章 第4節〔第1分野〕 化学変化と原子・分子

(高) 物質の分離や精製の実験などを行い、実験における基本操作と物質を探究する方法を身に付けること。

高等学校学習指導要領 第2章 第5節〔第4化学基礎〕 化学と人間生活

★その他

- ・算数ブロックを実際に使わずに、1人1台端末上で作業させることもできる。
- ・書画カメラ等でノート（プリント）を共有し、それを基に説明させることもできる。
- ・1人1台端末上での作業内容を画面共有し、それを基に説明させることもできる。